



53回全国研究協議会奈良大会をおえて



全国特別支援学級設置学校長協会
会長 阿部 謙 策

平成28年度全国特別支援学級設置学校長協会、第53回全国研究協議会奈良大会が8月4日、5日に橿原市において開催され、盛況のうち無事終了しました。

「一人一人の教育的ニーズに応え、豊かに生きる力を育む共生社会の形成に向けた特別支援教育の推進と充実」の大会テーマに沿い、全国より大勢の校長先生方の参加を得て、熱のこもった充実した研究協議会になりました。大会の開催にあたり、特段の御配慮を頂きました奈良県教育委員会、橿原市教育委員会をはじめとして、多くの関係諸団体に深く感謝いたします。また、本大会の準備を進めて頂いた奈良大会実行委員長竹原康彦様をはじめ、奈良県特別支援学級設置学校長協会の皆様方の御尽力に対し、会を代表して心よりお礼申し上げます。

本大会に先立ち国営飛鳥歴史公園内の会場にて行われました副会長会では、「障害者差別解消法施行後の合理的配慮の提供に関する要望の状況」「自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍している知的障害・発達障害以外（選択性かん黙など）の児童生徒の実態について」各地区で集約された御意見や情報の交換を行いました。傾向としては、合理的配慮の提供に関しては、法の施行以前と比べ大きな変化は見られず、また自閉症・情緒障害特別支援学級での選択性かん黙児の割合は多くない状況であることが報告されました。また、大会初日には、文部科学省初等中等教育局特別支援教育課長 丸山洋司様からの行政説明、その後の奈良市立一条高等学校校長 藤原和博先生による御講演と充実した内容で進行いたしました。二日目は三つの分科会において、人材育成、学校経営、関係諸機関との連携などの実践報告をもとに、校長のリーダーシップを発揮していくことの重要性や、課題解決に向けての方策が熱心に話し合われました。インクルーシブ教育システム構築に向けての特別支援教育の充実は、こうした地道な取り組みと、成果の共有化が不可欠であると考えます。本大会の詳細はP2からの報告を御参照ください。

さて、この8月にはこれからの特別支援教育に大きく関わってくる、次期学習指導要領等に向けた審議のまとめ（案）が報告されました。その中で、障害に応じた指導上の工夫として、すべての教科等の学習プロセスにおいて、考えられる困難さに対する指導の工夫や手立ての具体的な例を、学習指導要領に示していくとあります。このことは、特別支援学級の担任だけでなく、すべての教員が学級に在籍している配慮を要する児童生徒に対して、特別支援教育の考え方を取り入れ、授業を工夫していかななくてはならないということです。また、特別支援教育における予算も毎年増額されてきており、文部科学省も非常にこの教育に力を注いでくれています。私たちすべての校長は、学校教育の中で、将来を担う子供たちに、共生社会を形成していくための素地を身に付けさせることが求められています。今回第53回全国研究協議会奈良大会の成果が、各都道府県各地域の今後のますますの特別支援教育の充実とインクルーシブ教育システム構築につながることを祈念します。加えてこれからの本協会の活動に対しましても、御理解と御協力をよろしくお願いします。

第53回 全国研究協議会 奈良大会

奈良大会実行委員長 竹原 康彦



平成28年度全国特別支援学級設置学校長協会 第53回全国研究協議会奈良大会を、平成28年8月4日（木）、5日（金）に、奈良県橿原市の奈良県社会福祉総合センター・橿原観光ホテルの両会場で開催いたしました。

大会主題を「一人一人の教育的ニーズに応え、豊かに生きる力を育む共生社会の形成に向けた特別支援教育の推進と充実」とし、一日目は、開会行事に引き続き、文部科学省初等中等教育局特別支援教育課長による行政説明の後、奈良市立一条高等学校長から「多様化する社会と学校経営」と題して御講演をいただきました。二日目の午前中の研究協議では、3分科会に分かれて近畿ブロック各府県の校長からの実践報告とグループ協議を行いました。午後には、各分科会での討議内容の報告と特別支援教育調査官による全体講評をいただいた後、閉会行事をもって全日程を終えることができました。

大会には、奈良県内および全国各地より400名を越える参加者を迎え、各会場で熱心な研究協議が行われました。無事に奈良大会を終えることができましたのは、阿部謙策会長様をはじめとする本部役員の皆様、全国理事及び全国各地から御参会いただいた校長先生方、そして、御理解と御支援をいただいた関係各位のおかげと心より感謝申し上げます。

以下、大会の概要について報告いたします。

【1日目 8月4日（木）】

〈行政説明〉 「特別支援教育行政の現状と課題」

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課長 丸山 洋司 様

- 1 特別支援教育の現状と課題
- 2 特別支援教育に関わる最近の動向
- 3 障害者の権利に関する条約への対応
- 4 平成28年度特別支援教育関係予算等
- 5 その他

〈講演〉 「多様化する社会と学校経営」

奈良市立一条高等学校長 藤原 和博 様

多様化する社会とは、20世紀の「正解」がある成長社会から、「正解」がない成熟社会へと急激な変化が確実に進行している。これまでは、基礎学力や情報処理能力による「正解」が求められ、こ

れからは、複眼思考などの情報編集力による「納得解」が求められる「それぞれ一人一人」の社会に変わりつつある。この変化に対応すべく、学ぶ者一人一人に応じた学習内容を提供するだけでなく、学びたい一人一人に最適化された学習レベルや学習方法についても提供する「アダプティブラーニング」が、これからの学校現場ではより重要になってくる。したがって、校長はリーダーシップをより発揮して学校経営に臨まなければならない。これらの内容を、具体的な社会事象を交えて熱く語っていただきました。

【2日目 8月5日（金）】

〈実践報告・研究協議〉

第1分科会「特別支援教育の充実に向けた教職員の人材育成」

実践報告1「生徒一人一人の持てる力を引き出すための教師の指導力向上に向けた取組について」

（和歌山県 橋本市立紀見北中学校 校長 西川 光）

実践報告2「特別支援教育の専門性向上と教職員の人材育成」

（京都府 与謝野町立岩滝小学校 校長 高岡 弘安）

教員はインクルーシブ教育の視点を踏まえ、通常学級における発達障害をもつ児童生徒においても適切な指導・支援が求められる。そのための専門性の高い知識・技能の習得、校内支援体制の充実、実効性のある連携協働、研修機会の充実やOJTによる研修等の取組が報告されました。また、「チーム学校」の視点に立ち、教育内容の編成などの充実を図り、組織的・協働的に課題解決に取り組むことが大切である等の意見が出されました。

第2分科会「校内の特別支援教育の推進・充実と学校経営」

実践報告3「子どものニーズを確かな支援につなげるケース会議を中心にした特別支援教育の推進」

（滋賀県 甲賀市立甲南中部小学校 校長 小西 喜朗）

実践報告4「学校がチームになって取り組むインクルーシブ教育システム」

（奈良県 奈良市立鳥見小学校 校長 今西 満子）

早期発見・早期支援の必要性を職員が理解することと、学校長は教職員の経験値や特性を把握し、仲間作りや信頼関係構築や授業改善等の環境調整などで適切なアドバイスも必要。誰もが抱え込まずに取り組める「特別でない支援教育」の取組を充実させなければならない。そのためにも、互いに信頼して協力し合える教職員のチームワークが必要である等の意見も出されました。

第3分科会「関係機関との連携で進める特別支援教育」

実践報告5「『わかった・できた・やってみよう』を支える特別支援教育」

（兵庫県 神戸市立御影小学校 校長 田中 秀典）

実践報告6「共生教育の充実に向けた望ましい連携（つながり）をめざして」

（奈良県 橿原市立白橿南小学校 校長 桶谷 善規）

校長は対象児童生徒の実態を踏まえ、関係機関とどのようにつながっていくか見通しをもってかわっていくことが大切。その上、関係機関も多様化しているので対象の子どもに合った機関を選び、コーディネートしていくことが重要である。また、若手教員が増加している現状においてインクルーシブ教育を進めて行く上で教員の資質向上、意識改革への取組が重要であり、課題であるなどの意見も出されていました。

〈全体会・全体講評〉

各分科会記録者よりそれぞれの分科会の協議内容について報告があった後に、文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官の田中 裕一様から全体講評をいただき、最後に閉会行事を行い全日程が終了いたしました。詳細につきましては、平成29年3月発行予定の全特協平成28年度研究紀要に掲載予定です。

平成28年度 全国特別支援学級設置学校長協会秋季研究協議会
第33回 関東甲信越地区研究協議会 山梨大会

- 1 研究主題 「学校における一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進」
- 2 期 日 平成28年11月11日(金) 10:30~16:00
- 3 会 場 山梨県立 文学館講堂
〒400-0065 山梨県甲府市貢川1丁目5番35号
- 4 日 程
 - (1) 開会行事 10:30~11:10
主催者挨拶、来賓祝辞
 - (2) 研修 I 11:10~12:20
講 演 「今日的課題に応じた特別支援教育の推進と学校経営」
講師 山梨大学大学院 准教授 吉井 勘人 様
 - (3) 研修 II 13:30~15:50
実践発表(1) 「一人一人のニーズに応じた特別支援体教育」
笛吹市立八代小学校 篤本 三夫 校長
実践発表(2) 「特別支援教育を生かした学校経営のあり方」
—関わりの中で育てる教育的支援体制のありかた—
上野原市立秋山小学校 勝俣 茂 校長
実践発表(3) 「特別支援学級における指導の充実」
—全校体制での取り組み—
韮崎市立韮崎東中学校 中澤 弥 校長
講 評 山梨県教育庁高校教育課主幹・指導主事 近藤 晴樹 様
 - (4) 閉会行事 15:50~16:00
主催者挨拶、次期開催地区代表挨拶(神奈川県)

☆ 参加費は無料です。多数の皆様の御参加をお待ちしております。

関東甲信越地区研究協議会 山梨大会実行委員会事務局 南部町立睦合小校長 田村 勝彦
〒409-2215 山梨県南巨摩郡南部町南部 4376 Tel 0556-64-2043 Fax 0556-64-4534

第3回全国理事研究・研修協議会のご案内

- ・期 日 平成29年1月26日(木)・27日(金)
- ・会 場 和歌山県 ホテル アバローム紀の国 (和歌山県和歌山市湊通丁北2丁目-1-2)
- ・内 容 [1日目]
全国副会長会 全国理事会 研究協議会 行政説明 ブロック会議
顧問参与の会 懇談会
[2日目]
教育機関研修 視察 (和歌山県立和歌山さくら支援学校)

☆ 本年度最後の「全国理事研究・研修協議会」となります。御参加をお願いします。
東京での定期総会および奈良県での全国研究大会に多くの方々に御参加いただきました。ありがとうございました。